

第5次総合計画 中期戦略事業プラン 事務事業評価シート

事業名	公共下水道整備事業			事業番号	34-103
事務事業担当	部名	部長名	課名	課等の長	
	土木部下水道担当	石井 啓治	下水道整備課	佐野 晃	

計 画 (P l a n)					
総合計画体系	都市力	まちづくり目標	4	住み続けたい快適で魅力あるまち	
		基本政策	9	快適で暮らしやすいまちづくり	
		施策展開の方向	16	便利で機能的なまちをつくる	
		施策	34	都市の機能を高める基盤施設の整備	
予算事業名	第2号公共下水道管渠整備事業費				
	第3号公共下水道管渠整備事業費				
事務区分〔選択〕	☒ 自治事務	☐ 法定受託事務	(選択してください)→	法令上の位置づけ	実施する規定はない
事業開始年度	開始年度	昭和46年度 ～		終了年度	-
関連法令等	下水道法				
国・県の計画等	社会資本整備総合交付金			計画期間	-
関連個別計画	社会資本総合整備計画 伊勢原市便利で暮らしやすいまちの実現(重点計画)			計画期間	平成28年度～令和2年度 令和3年度～令和7年度
実施の背景 (事業を取りまく環境・市民ニーズ)	都市機能を高めるとともに市民の快適な生活環境を創造する公共下水道は、都市基盤の重要な施設のひとつとして位置付けられており、市民の関心も高く整備の要望が多いことから、早期の整備が急務となっています。				
目 的 (何をどうしたいのか)	市街化区域における公共下水道を令和7(2025)年度の概成に向け整備します。				
主な対象 (誰・何を対象に)	市街化区域未整備地区				
事業内容 (手段、手法など)	・市街化区域内の未整備地区について、令和7年度の概成を目標として、引き続き整備を進めます。 ・伊勢原大山インターチェンジ周辺地区土地区画整理事業に伴う公共下水道整備について、実施設計及び整備工事を進めます。				
事業行程	項目	年度			
		令和3年度		令和4年度	
	第2号公共下水道	整備工事・調査設計		整備工事	
	第3号公共下水道	整備工事・調査設計		整備工事・調査設計	
目 標	【指標名】		年度		
		【現状値】	令和3年度		令和4年度
	市街化区域整備面積	1064.4ha (90.3%) (令和2年度)	1074.2ha (91.1%)		1081.0ha (91.7%)



事業実施 (Do)

事業実施 (D○)

事業の「取組方針」 (前年度事務事業評価)	第2号公共下水道については、新たに設定した東部第3負担区の整備を進め、第3号公共下水道については、国道246号を横断する幹線整備を進めていきます。また、面整備については、対象地区で実施した「公共下水道に関するアンケート」の結果を考慮した「意向型面整備」により計画的に整備を進め、効率的に未整備地区の解消を図ります。			
実施方法 〔選択・記入〕	☒ すべて直接実施 ☐ 左記以外			
	☐ 業務委託	☐ 指定管理	委託先又は指定管理者	
	☐ 補助金		補助先	
	☐ その他		具体的内容	
実施結果	項目	年度		
		令和3年度	令和4年度	
	第2号公共下水道	整備工事・調査設計		
	第3号公共下水道	整備工事・調査設計		
実施した取組の内容	第2号公共下水道:整備面積 2.26ha 第3号公共下水道:整備面積 4.66ha			
目標の達成状況	【指標名】	【現状値】	年度	
			令和3年度	令和4年度
	市街化区域整備面積	1064.4ha (90.3%) (令和2年度)	1065.3ha (90.4%)	

コスト	年度		令和3年度 実績				令和4年度 実績			
	事業費合計 (a)		446,969		千円			千円		
	内訳	国県支出金 ①	118,500		千円			千円		
		地方債 ②	327,500		千円			千円		
		その他特財 ③	0		千円			千円		
		一般財源 (a)-①-②-③	969		千円	0		千円		
	国県支出金の内容		社会資本整備総合交付金(通常分) 118,500千円 補助率:1/2							
	その他特財の内容	受益者負担	○ 有 ● 無		前回の改定時期					
		その他								
	人件費	正規職員	4.99	人	40,818	千円		人		千円
		その他の職員	0	人	0	千円		人		千円
		人件費合計 (b)	4.99	人	40,818	千円		人		千円
	トータルコスト (a)+(b)		487,787			千円	0			千円
	単位当たりコスト	対象数	定義	令和3年度市街化区域面積			単位			単位
対象数			7			ha				
		総事業費／対象数	69,683,857			円			円	

評 価 (Check)				
進捗状況 〔選択・記入〕	☐ 計画どおり (A) ☒ 概ね計画どおり (B) ☐ 計画どおり進捗せず (C)	B	左記判断理由	第2号公共下水道及び第3号公共下水道について、一部繰越工事となりましたが概ね計画どおりに実施しています。
実施水準 〔選択・記入〕	☐ 他市より高い水準で実施 (A) ☒ 他市と同水準で実施 (B) ☐ 他市より低い水準で実施 (C) ☐ 一律に比較できない事業	B	他都市の事業内容等	令和3年度末の伊勢原市公共下水道人口普及率は、80.6%で全国平均と同水準です。
有効性 〔選択・記入〕	☒ 高い (A) ☐ 普通 (B) ☐ 低い (C)	A	左記判断理由	公共下水道の整備を進めることで、市民の快適な生活環境と公衆衛生を確保し、併せて公共用水域の水質保全を図れることになるため、本事業は有効性が高いと判断します。
効率性 〔選択・記入〕	☒ 効率的に実施されている (A) ☐ 改善の余地がある (B) ☐ 抜本的な改善が必要である (C)	A	左記判断理由	社会資本総合整備計画を策定し、国の交付金を活用して継続的に事業を実施していくことで、効率的に実施されています。



取組内容の改善 (Action) へ

取組内容の改善 (Action)				
所属長による今後の方向性の判断	方向性 〔選択〕	☒ 現状のまま継続 ☐ 見直しの上継続	事業推進上の課題	社会資本整備総合交付金の確保に向け、引続き情報収集や要望活動等を行うとともに、費用対効果を考慮した整備計画を着実に実施する必要があります。
令和4年度 of 取組方針		第2号公共下水道については、引続き下糟屋地区の整備を進め、第3号公共下水道については、引続き上粕屋、田中地区ほかの整備を進めていきます。 面整備については、対象地区で実施した「公共下水道に関するアンケート」の結果を考慮した「意向型面整備」により計画的に整備を進め、効率的に未整備地区の解消を図ります。		
所管部長による総評		伊勢原市公共下水道全体計画における下水道普及率の目標値は、84.3% (令和12年度末) であり、令和3年度末の下水道普及率は80.6%となっております。令和7年度末の市街化区域内の公共下水道概成を当面の目標として、着実に整備事業を進める必要があります。 なお、整備にあたっては「意向型面整備」による整備の有効性、効率性を意識した整備が必要です。		